

## 呉世昌氏の報告をめぐる討議

本研究は大邱地域貿易企業体を中心に韓・日間商品貿易において必須的に使われている Incoterms を選定するに際して種々の選定基準の中でとりわけ、貿易業務熟知程度、即ち貿易契約の重要性の認識程度と貿易契約履行の認識程度を前提に Incoterms を選定しているのかを研究し、大邱貿易企業体の韓・日間物品取引時 Incoterms 選定の問題点と新たな代案を提示することで地域業界の貿易増進に寄与することを目的としている。

質問(李源根教授)：貿易に関する研究をする先生がかなり少なく、大してお役に立つかどうか分かりませんが、本当に初步の質問を一つ致します。貿易をするとき船でしたり、航空で、あるいは陸路でする場合があります。万一貿易がいろいろな形態でなされるとするなら今日発表なさった内容の中ではどのような相違点があるのかを質問いたします。

発表者(呉世昌教授)：貿易で運送の形態が船でもする場合があります、航空でする場合があります、いろいろありますが、それは商品により、また取引する地域により、そして運送機関の発達によって与件が異なっています。韓・日間の場合、例を挙げるとバルク貨物であるとか包装自体が困難な、そのような貨物の場合は船舶の中でも伝統的な船舶を使用するのが良く、コンテナの場合はコンテナ船を利用するのが良い。少量貨物の場合は航空を使用することもでき、アメリカのような地域には複合運送の形態、即ち鉄道で行って途中で航空に変えることも出来、船でも行ける複合運送の形態が適当です。しかし、現今運送手段が物流費用という、これ自体が今貿易取引の価格に非常に大きい影響を及ぼしています。今現在私の知る所では我が国内の例を挙げると、内陸地方での国内物流運送費用が日本の運送費用より高いものと存じております。

質問者(桃山学院大学教授)：今まで伝統的な貿易がなされてきたが、インターネットが普及するようになり、インターネットを多く使用しているが韓国では両方の比率がどの程度になるか。

発表者：今のところは現行の外国為替経済としてなされるインターネット決済よりは今だに外国為替決済が多いものと存じております。実はインターネットをよく存じませんが、インターネット契約に関して今新しい研究がなされておりますが、インターネット取引の場合は今なお国際決済システムにおいて銀行のサイトはできているが一般企業体には良く普及していないために依然として国際間でインターネットに対する代金決済は輸入者、買主負担になっているため依然リスクが大きいと、私はそのように考えております。おそらく趨勢は日本も同じでしょうがインターネットによる決済が今後増加の趨勢にあることだけは事実だが、そこに対する副作用と補完策が伴わなければ、相当問題があるものと考えます。

大邱地域にある企業体は大部分中小企業です。繊維、めがね、このような企業体が中小企業体です。このような企業体が貿易をするにおいて直接貿易をせず仲介商、オファー商とりわけソウル所在のオファー商を通じてなされる場合がたくさんありました。ところで大邱地域にある企業体が商品、物を上手に作るのだが、貿易についての知識があまりありません。例えば信用状一つさえまともに企業体が把握できない、そんな場合がたくさんありました。

それで我が通商学部 of 学生たちがインターンシップをしながら、かなり中小企業体に対し、そのような貿易実務についての専門知識を伝達するのに相当寄与しました。これから大邱でこのような企業体が持続的に啓明大学通商学部ばかりでなく、他の学部とインターンシップを実施することを今望んでおります。事実、今現在

ICC でもそうであり、我が国内でもそうで、このモデル契約がたくさんあります。多くの業者が便宜のためリースに関することであるとかフランチャイズに関するいろいろなモデル契約があるが、モデル契約そのものはあると言ってもモデル契約案に入る内容そのものが何を意味するか分からなければならない。その意味自体が分からなくては、幾らモデル契約があっても無用の長物というものでしょう。例えばモデル契

約案に何か特別に仲裁に関する規定があるとしたとき、仲裁が何をするものであり、仲裁がどのような規則があるのか、そのような内容を知って初めて、このモデル契約書を活用できるというものです。それゆえ、それ自体がだめだということです。

(曹賢正\*)

(李源根\*\*)

(訳 宣憲洋\*\*\*)

---

\* 啓明大学校通商学部教授

\*\* 大邱大学校貿易学科教授

\*\*\* 小樽商科大学商学部講師